

教育だより

発行: 芦別市教育委員会学務課

☎0124-27-7586

目次	1面	望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けて
	2面	ネット利用に関するアンケート調査結果から
	3面	特別支援教育研修会、社会科副読本「あしべつ」が新しくなります
	4面	リレーでつなぐ学校紹介(芦別高校)、「1日防災学校」を実施

望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けて

全国学力・学習状況調査では、前回お知らせした学力と合わせて、子どもたちの学習習慣や生活習慣についても調査しています。その中で特徴的なものについてお知らせします。

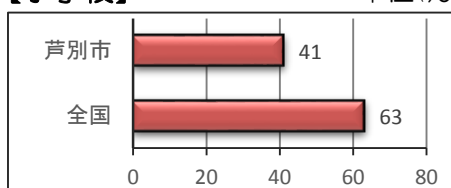
下のグラフを見ると、本市の児童生徒は、全国と比べて1日の家庭での勉強時間が短く、テレビゲーム等をしている時間が長いことがわかります。これら2項目は、本調査の学力の結果と関係しており、1日の家庭での勉強時間が長いほど正答率が高く、テレビゲーム等をしている時間が長いほど正答率が低いという分析がされています。

一方で、家庭で計画を立てて勉強に取り組んでいる児童生徒の割合は、小中学生ともに全国を上回っており、これは、各学校が取り組んでいる家庭学習の計画書の作成や、保護者のご協力のもと小中連携して実施している家庭学習強調週間の取組の成果のあらわれの一つともいえます。

①家での勉強時間(月曜日から金曜日)、1日1時間以上と回答した児童生徒の割合

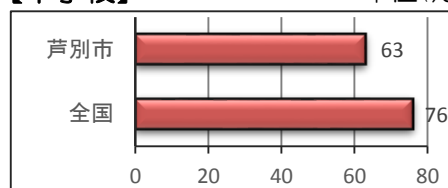
【小学校】

単位(%)



【中学校】

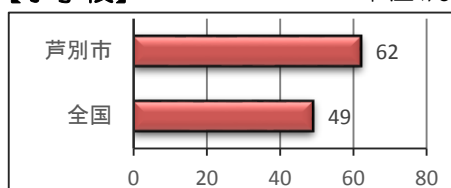
単位(%)



②普段(月曜日から金曜日)、1日2時間以上テレビゲーム等をしていると回答した児童生徒の割合

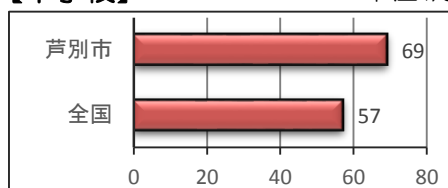
【小学校】

単位(%)



【中学校】

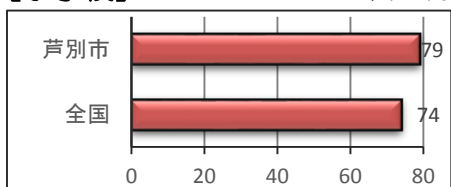
単位(%)



③家で、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童生徒の割合

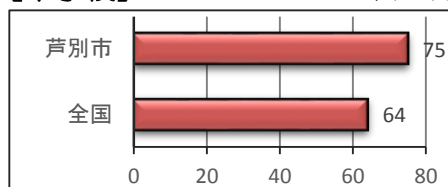
【小学校】

単位(%)



【中学校】

単位(%)



今後も、教育委員会では、学校と家庭・地域の皆さんが連携しながら、児童生徒1人ひとりが自ら計画を立てて学習するとともに、規則正しい生活習慣を確立し、学力の向上につながる環境づくりを進めていきます。

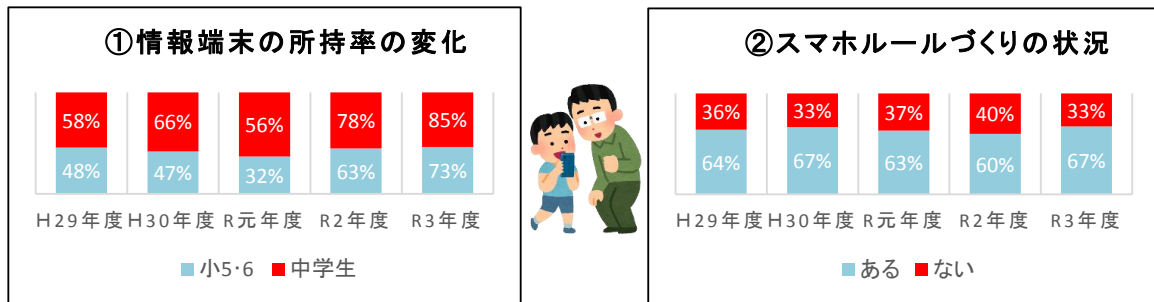
※本年度の全国学力・学習状況調査の結果については、芦別市公式ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。(右のQRコードからもご覧になれます→)
(<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4807.html>)



ネット利用に関するアンケート調査結果から

家庭でのネット環境が整ってきている中、本市では令和2年度末に児童生徒1人1台タブレット端末を整備し、子どもたちがネットに触れる機会がより一層増加しています。ネットはとても便利なものですが、使い方を誤ってしまうと、個人情報の流出やストーカー、いじめなどの被害に遭ってしまう危険性を合わせ持っています。

教育委員会では、子どもたちの携帯電話やスマートフォンの所有状況などの実態を把握するため、市内の小学校5年生から中学校3年生を対象とした「ネット利用に関するアンケート」を毎年実施し、各小中学校での情報モラル教育に役立てています。ここでは、その調査結果の一部を紹介します。



①情報端末の所持率は、令和3年度で小学生73%、中学生85%と小学生が大きく増加しています（前年度比+10%）。さらに家族との共有も含めると、小学生93%、中学生90%となり、ほとんどの子どもたちがネット等を利用できる環境にあります。

②家庭でのスマホルールづくりの状況については、これまで減少傾向にありましたが、令和3年度は67%（前年度比+7%）となりました。子どもたちの情報端末の所持率が増加し、ネット等を利用しやすい環境が整ってきている一方で、家庭でのルールづくりは平成30年度の67%にようやく戻った状況です。

今後、各小中学校において、タブレット端末の家庭への持ち帰りが始まります。ネットトラブルから子どもたちを守るためにも、家庭でのルールづくりについて今一度話し合ってみてください。

また、令和3年12月16日に、総合福祉センターにおいて、『いじめ』根絶のための取組として、令和3年度芦別市仲間づくり「子ども会議」を開催しました。

会議では、市内の小中学校と芦別高校の児童生徒の代表が2名ずつ計10名が参加し、「いじめを許さない学校をつくるにはどうしたらいいのか」をテーマに活発な話し合いが行われました。

それぞれの学校の児童会・生徒会の取組を交流し、その内容を今後の活動にどのように生かしていくのかの意見を出し合い、各学校に新たな活動のヒントとして持ち帰りました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、この2年間、各学校では学校行事や児童会・生徒会の活動が制約される中でも、「いじめを許さない学校づくり」に向けた取組が積極的に進められています。SNSを利用したいじめが新たな問題となってきている今日、各学校では、ネットによるいじめの未然防止に努めてまいりますので、家庭においてもスマホのルールづくりや情報モラル教育の推進について、ご理解とご協力をお願いします。



※芦別市のホームページに、ネット利用の基本ルールやいじめ問題対策連絡協議会のページを掲載していますので、ご覧ください。

・「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」 →

<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4805.html>

・いじめ、いじめ問題対策連絡協議会 →

<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4803.html>

右のQRコードからもご覧になれます。



～子どもの特性や成長に応じた支援を～特別支援教育研修会

令和3年11月26日、総合福祉センターにおいて、星槎大学大学院 西永堅 教授を講師として、特別支援教育連携協議会相談支援部会による研修会を開催しました。当日は市内小中学校の教職員を中心とした30名以上の方が参加し、西永教授による特別支援教育における教育相談のあり方をテーマとした講演に耳を傾けました。

特別支援教育とは「障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた取組を支援するという視点に立ち、児童生徒1人ひとりのニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び支援を行うもの」です。

西永教授からは、「日本の教育は、学年に応じた内容で決められており、必ずしもすべての子どもの特性・成長の度合いに適したものはなっていない。このことは単に障害による遅れのみではなく、同学年であっても、4月生まれと3月生まれでは1年近くも成長に差が生じており、その子に応じた支援を考える必要がある。」とのお話がありました。また、中学校に進学した際に、今まで普通に登校できていたのが、新しい環境になじめず、急に不登校傾向になってしまう「中1ギャップ」について、西永教授は、「環境的な変化による部分が大きいと言われているが、小学校6年生の時期に、抽象的な物事への理解が進み、他人との比較や、仮定での話を考えられるようになるなど、心理面での成長や変化が大きい時期と重なることで不安定となり、不登校につながることも多い。」とも話されていました。



教育委員会では、今回の研修会を受けて、特別な支援を必要とする子どもたちへの接し方のみではなく、その子がどういった経過で支援を必要とするに至ったか、その過程も踏まえて、子どもたちやその保護者に適切な指導、助言を行える学校体制の整備を図るため、さらなる教職員の資質の向上や専門性の育成に努め、今後の本市の特別支援教育のより一層の充実につなげていきます。

小学校社会科副読本「あしべつ」が新しくなります

小学校3・4年生の社会科では、本市の産業・文化・歴史を学ぶために、副読本「あしべつ」を活用しながら授業を行っています。

現在使用している副読本は、平成24年につくられたものですが、学習指導要領の改訂を受けて、10年ぶりに副読本の改訂を行っています。今回の改訂では、中学校でも、あしべつを学ぶ資料として活用できるように資料編として、本市の主な自然環境や施設、産業構成などとともに、読み物資料として炭鉱（空知）、鉄鋼（室蘭）、港湾（小樽）とそれを結びつけた鉄道による北海道近代化の物語「炭鉄港」を掲載します。

現在、各小中学校の先生たちにより、芦別市社会科副読本編集委員会を組織し、令和4年4月から児童生徒が活用できるように、編集作業を進めています。



～リレーでつなぐ学校紹介～

リレー方式で市内の教育機関の取組を掲載しています。

第5回目は
芦別高校!



コロナ禍における本校の学習活動や学校行事の取組について

昨年から続くコロナ禍の影響により、教育活動全般に制約や制限を受ける形になっていますが、感染症対策を十分に行い、工夫を凝らした教育活動を実施することができました。今回はその取組の一部を紹介します。

- ① 生徒会執行部が中心となり実施した芦高祭と体育祭（今年度は体育祭の締めには花火の打ち上げを実施しました。）
- ② 職場体験学習（2学年）の実施（各企業、事業所などの生徒の受入れ）
- ③ 芦別市との連携による「ほっかいどう学地方創生塾」への取組（高校生カフェを中心とした世代間交流ができる場所づくりの検討）
- ④ 防災体験会（1学年）への参加

このほかにも様々な教育活動を展開しています。
ぜひ、本校の学校ホームページもご覧いただけると幸いです。

ホームページURL

<http://www.ashibetsu.hokkaido-c.ed.jp/>

芦別高校 校長 清水 隆弘



万が一の災害に備え「1日防災学校」を実施

近年、全国各地で、毎年のように自然災害による甚大な被害が発生しています。地域コミュニティの核となる学校においては、保護者や地域住民、関係機関との連携・協働による学校安全体制の構築や、児童生徒の防災意識の向上を図ることが必要とされています。

本市は大きな災害が比較的少ないまちではありますが、市内の小中学校においては万が一の災害に備えて防災教育に取り組んでいます。

今年は芦別小学校、昨年は上芦別小学校で、それぞれ市の防災担当課や陸上自衛隊滝川駐屯地など、関係機関の協力を得ながら「1日防災学校」を実施しました。

芦別小学校では、令和3年11月24日に、全学年がそれぞれ1時間の授業の中で様々な体験メニューに取り組みました。体育館で行われた6年生の授業では、保護者も参加し、子どもたちと一緒に段ボールを使って間仕切りとベッドを作成し、居住スペースを確保する避難所設営を体験しました。



（上芦別小学校）



（芦別小学校）

芦別小学校「1日防災学校」

- 1時間目: 2年生～防災かるた
- 2時間目: 1年生～防災かるた
- 3時間目: 4年生～マイタイムライン※の作成
- 4時間目: 5年生～非常食調理実習体験
- 5時間目: 3年生～新聞紙スリッパの作成
- 6時間目: 6年生～段ボールベッドの作成（避難所運営）

※災害時に、時系列に沿って自分の避難行動を考える計画

子どもたちと一緒に段ボールを使って間仕切りとベッドを作成し、居住スペースを確保する避難所設営を体験しました。

上芦別小学校では、新型コロナウイルスの影響で延期していた5年生の宿泊学習を1日防災学校と合わせて実施し、同校の体育館に避難所を設営して、宿泊や救助訓練などを体験しました。

今後も、家庭や地域の皆さん、関係機関と連携しながら、防災教育に取り組んでいきます。

保護者・地域の皆さまへ

教育だよりは、本市の学校教育の現状や課題、さまざまな施策や取組などを広く市民の皆さんに知っていただき、情報を共有するため年3回発行しています。

本市の学校教育の向上に関するご意見を「郵送」、「ファックス」、「電子メール」（様式自由）にてお寄せください。

【送付先】〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地 芦別市教育委員会学務課学校教育係

【電話】0124-27-7586 【ファックス】0124-22-9696

【電子メール】gakumu@city.ashibetsu.hokkaido.jp